

No.10

東京文化資源会議

「ティーチャ」

T-Cha

東京文化資源
会議

Tokyo Cultural Heritage Alliance

ニューズレター

Takahiro
Nakajima



Masazumi
Oshimi



Moitomu
Uno



@Tokyo
Spiritual
Culture
Project

これからの
時代を生きる
豊かで多様な
精神文化を育むために

「湯島神田 社寺会堂 プロジェクト」

日本では、古くから中国の文化を明治以降は欧米文化を柔軟に取り入れながら独自の精神文化（哲学、倫理、宗教、社会思想、芸術・芸能、科学など）を発展させてきました。多様な文化をもたらした背景には、精神的な支柱である宗教との関係も存在しています。

東京文化資源区は多くの宗教・文化施設が存在する珍しい地域です。グローバル化する社会において多様な価値観・宗教観を持った人達の相互理解や文化的理解を促すと同時に日本社会の新たな理念的的方向性を考えていくために「湯島神田社寺会堂検討会」が2016年に発足。大学関係者に加え各文化施設の関係者が一同に集い、各文化施設のハードとソフトの両側面から学び合う場が作られてきました。

「それぞれの場所をお借りして勉強会をすることになった。歴史と文化の蓄積のある空間で語り合うことに

NEXT PAGE



よって、豊かな対話ができることを重視した」（宇野求…東京理科大学教授）

宇野さんは各文化施設が東京文化資源区の丘の上に立っていること、関東大震災後の近代建築としての技術の高さ、震災の被災後の焼け野原からのシンボルとしての象徴性など、建物を持つ文化的な価値についても言及。各勉強会では、他にも外部からの講師とともに日本の建築文化に関する議論を交わしてきました。

**互いを理解すること
宗教が地域とつながること**

2018年から、より深く宗教や文化を学び対話するために中島隆博（東



京大学教授）さんを中心に企画されたのが「社教会堂塾」です。各施設を巡りながら、宗教や思想の違いを超えて、同じテーブルでそれぞれの施設や宗教の歴史についての対話を重ねていくと同時に、今の私達が考えるべきこと、これからの私達のあり様を考えてきました。「お祈りや経典一つとっても、それぞれの宗教では意味が違ったりする。個々の宗教の背景や文化の違いを認識しながら、宗教と文化についてこれからとこれからを考える場となった」（中島さん）



Takahiro Nakajima

Masazumi Oshimi

Motomu Uno

匡純さんは「それぞれの宗教的な立場、例えば自分達の教義経典の中だけで話すのではなく、それぞれが社会と向き合いながら立場を超えた考えを持っていくことが大切」と話します。「自然」とともに生きる神道は、八百万の神の考え方をもとに常に新しい力を取り入れながら時代とともに変化してきた。また氏子を中心に各地で数多くのお祭りがあり、お祭りがあることで地域のコミュニティが作られていくことも日本の特徴。人びとの生活の根幹にある精神文化を支え、心を一つにして地域の紐帯を作る役割が宗教施設にはある」（押見さん）

関東大震災を経た復興のシンボルとして、神田明神や湯島天満宮などの施設は地域の人びとの心の支えとなった歴史があります。「教義経典での学びだけでなく、地域の抛り所やコミュニティの柱となることこそ、宗教が持つ一つの価値」だと中島さんも指摘。しかし、戦後復興や経済成長、人々の生活様式の変化や多様化に伴い、次第に地域との関わりも薄まってきました。

「かつては教育や防災などの開かれた地域拠点だったが、次第に私達の実生活から離れたものになってきた。これからの防災や避難場所、地域の

湯島天満宮の権宮司を務める押見



拠点として、都市における宗教施設の役割を見直すことの意味は大きい」（宇野さん）

**宗教間が連携した
夜の哲学対話を企画**

都市における宗教施設と地域との関わり、これからの時代を生きるための精神文化を育む取組みとして新たに立ち上がったのが、2020年10月に予定している「崖東夜話」という複数の宗教施設を舞台にした哲学対話イベントです。一般的に、単一の宗教施設で催しが開催されることはありますが、複数の宗教施設が連携して企画を行うことはこれまでに類を見ないものです。「パリで開催されているnight of philosophyという夜通しの哲学のお祭りを一つの参考にして、老若男女、これからの時代を生きるために哲学について、楽しく考え議論するお祭りにしたい」と中島さんは説明します。



社やお寺といった場所も、夜の時間帯に訪れることによって、昼間とはまた違った体験をすることができそうです。宗教施設という空間を持つ方も相まりながら、自己との対話を促す絶好の機会ともいえます。「古来日本では夜は特別なものとされています。暗いからこそ物事を見ようとする力や、研ぎ澄まされた力を通じて考えたり感じたりすることができ」（押見さん）

**これから生きる
社会と向き合うために**

崖東夜話そのものが地域に開かれた催しとして、新たな形で宗教施設と地域とのつながりも生まれるきっかけになってきます。今後、回を重ねながら、これからの時代を生きるために私達が考えるべき心のあり方を見直す機会となり、そこから新たな文化が生まれる土壌が育まれてくるのではないのでしょうか。宗教というあり方そのものにも私達が向き合い、考えながら、多文化共生、多様な人種、多様な価値観を持った人たちがともに生きていくことが求められてきます。

自己との対話、他者との対話を通して、新たな精神文化を築き上げることが、文化資源を活かす私達自身をよりいきいきとさせてくれるはず

（記事構成：江口晋太郎 撮影：鈴木沙）

T-Cha NOW TOKYO PROJECT

東京文化資源会議では、民産官学の様々な分野の専門家や実践者が集い、
東京の各地域で育まれている様々な文化資源をハード面・ソフト面から活用するプロジェクトを推進しています。
ここでは、東京文化資源会議全体の動向や各プロジェクトの近況をお知らせします。



空きスナック活用
歓楽街で文化の香る
催しが盛大に開催

2019年9月20日と21日の二日間、不忍池のすぐ南の上野から湯島地域にまたがる一帯で点在する空きスナックを活かした歓楽街回遊型アーツイベント「アーツ・アンド・スナック運動」が開催されました。

上野スクエア構想プロジェクトでは、歓楽街の中にかつての風格や文化性が埋もれてしまっている界隈にフォーカスし、地元ビルオーナーの皆様との勉強

会を定期的に行ってきました。

その成果の一つとして、今回の「アーツ・アンド・スナック運動」を開催することができました。

当日は7つの空きテナントとストリート上を会場として活用。藝大生によるアート展示・老舗

バーマスタール&スナックママのトーク、Musicスナック、仲町の練り歩きワークショップ、

落語会や音楽ライブなど「スナック」を「アーツ」の場に転用するという独自性や、仲町の秘め持つ空間の面白さに関心を寄せてくださった方々のご協力により、盛りだくさんのプログラムが実現できました。二日間でおよそ250名の方が来場し、

歓楽街に吹き込んだ今までと違う雰囲気、関係者一同大きな手応えを得ました。

今後も地元としっかりと連携し、定期的な開催とともにイベント規模も大きくしていきたいながら、地域の文化資源を活用した取り組みを目指してまいります。

『帝都物語』の「竜脈」から歩く 東京下町の今と昔

地図ファブプロジェクトでは前号でご案内した通り、荒俣宏さんの『帝都物語』を軸としたまちあるきワークショップ「帝都の竜脈をあるき」帝都物語地図カタログの楽しみ方を探る実験のまちあるき」を2019

年11月4日(月・休)に開催しました。

上野公園に集合したのち、上野仲町の会議事務所前から吹抜け横丁を抜けて湯島天神へ。その後、地形を感じつつ崖下を通過して神田明神へ向かい、天野屋さんで甘酒をいただき休憩しました。

聖橋を渡って神田川を超え、マーチエキュートの模型やオーブンデッキを楽しんでから、神田須田町界隈を通過して淡路町駅から地下鉄に乗り、九段下駅でワークショップ会場である富士見区民館へ到着しました。

ワークショップ会場では、参加者それぞれにとって「竜脈」とは何であるかを意見交換しました。参加人数は小規模ではありますが、文化資源区の歴史や『帝都物語』に関心を持たれ



た「濃い」みなさまのご参加により、大変意義深いまちあるきとワークショップでした。

ワークショップの成果は、実験のまちあるきとしてオンラインマップサービス「Story」にまとめています。(以下のQRコードからアクセスできます)。

本まちあるきの企画・運営・システムに関して「株Story」にボランティアにご協力をいただきました。ありがとうございます。

今後、地図を活用した様々な取り組みを行うてまいります。



アキバの未来を スローモビリティから 考える アイデアソン実施

「広域秋葉原作戦会議」プロジェクトでは、12月7日(土)に「トーキョートラムタウン構想」プロジェクトチームと共同で「アイデアソン・スローモビリティで楽しいアキバ!」を二松学舎大学STUDYLABをお借りして開催し、28名の方にご参加いただきました。

アイデアソンでは、「秋葉原の街の課題を、スローモビリティを導入することで、どのように解決できるのか?」というテーマで参加者とともにアイデアを広げました。

秋葉原の街にはどのような課題があるのか。そこどのような

な形のスローモビリティ(トラム、自転車、河川舟運、セグウェイなど)を導入すれば良いのか。その結果としてどのように課題が解決できるのか。

今回のアイデアソンでは、参加者が実際に秋葉原の街を歩きながら街の問題を探るフィールドワークも行うプログラムとしました。フィールドワークを踏まえて出されたアイデアは、どれも街の問題を解決することが期待でき秋葉原をより楽しくするものになっていました。

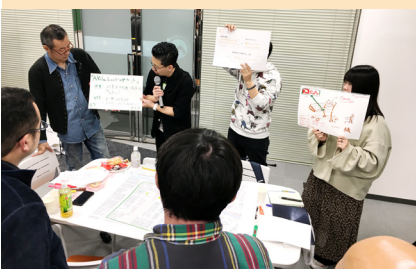
アイデアソンで議論した内容などについては、追ってウェブサイトでも公表しながら、今後

この、地域の文化資源をデジタルアーカイブ化する体験型ワークショップとなっています。参加者のみなさんには、中学校の思い出の品や写真を持ち寄っていただき、お話を伺いながら地域のデジタルアーカイブを作成します。

当日は10時から16時まで。場所は日比谷図書館文化館4階小ホールです。参加費は無料。対象は千代田区民もしくは千代田区内の小中学校の卒業生となっています。

申込み期日は2020年1月28日(火)まで。お申込みは「http://bit.ly/Dat2020」にまでアクセスしてください。

千代田区民以外の方で見学とディスカッションへご参加されたい方は、どなたでも大歓迎です。その場合は参加申し込みは不要です。お気軽にご参加ください。



のプロジェクトの活動の参考にさせていただきます。

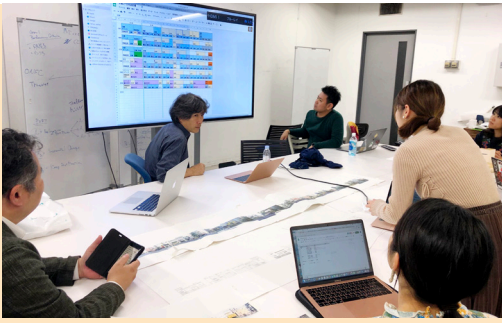
千代田の歴史を デジタル アーカイブする ワークショップが 2月開催

地域文化資源デジタルアーカイブプロジェクトでは、千代田区のご後援を受けてデジタルアーカイブ・ワークショップ「千代田区の小中学校のおもいで」を2020年2月1日に開催いたします。

これは、地域の文化資源をデジタルアーカイブ化する体験型ワークショップとなっています。参加者のみなさんには、中学校の思い出の品や写真を持ち寄っていただき、お話を伺いながら地域のデジタルアーカイブを作成します。

当日は10時から16時まで。場所は日比谷図書館文化館4階小ホールです。参加費は無料。対象は千代田区民もしくは千代田区内の小中学校の卒業生となっています。

申込み期日は2020年1月28日(火)まで。お申込みは「http://bit.ly/Dat2020」にまでアクセスしてください。



本郷の未来を考えた これからの都市開発 学生らが提案

東京大学大学院工学系研究科の大学院生向け都市デザインスタジオが、2019年9月から12月まで開講されました。その中のテーマの一つが「本郷周辺の都市デザイン提案」。

本郷のキオクの未来プロジェクトのメンバーでもある小泉教授・中島准教授が開講している

T-Cha NOW TOKYO PROJECT

ことから、プロジェクトメンバーも協力しながら具体的な都市デザインの議論を進めています。修士課程の5名が参加しており、具体的な本郷通り沿いの都市開発・制度の今後のあり方を考えています。

12月末には最終発表会を開催。大学院生とともに絶賛準備中（本原稿執筆時点）。今後、地域の皆様にも議論を通じて煮詰めたい提案内容について、成果発表できる機会を設けていく予定です。

東京文化資源会議 これまでの活動を ウェブでアーカイブ

2019年も終わり、いよいよ2020年となりました。東京文化資源会議の各活動を伝えるこの冊子も、今回で10号目ということで一つと節目となりました。

各プロジェクトの活動の幅も広がってきており、日々様々なイベントや企画、提言書や提案書などを出しています。これらの活動は、東京文化資源会議のウェブサイト（tcha.jp）に掲載されています。これまでに提出した報告書や本冊子の過去号もウェブから閲覧できます。

2020年には、3月に上野ナйтパーク構想の企画が、5月にはソラシティでのイベントも開催予定です。また、秋には社寺会堂プロジェクトの大規模イベントも開催されます。各プロジェクトの活動をまとめた書籍の出版も予定されており、各取り組みが次第に地域や社会に対して新たな価値を提案し始めています。2020年も引き続きご支援ご賛同のほどよろしくお願いいたします。

編集後記

東京文化資源会議の様々な新しい試み。その新しさは先人が築いてきた歴史・文化の積み重ねを創造性豊かに活用していくことに依拠しています。「いま」があるのは「むかし」があったから。「いま」が次の時代にとって価値ある「むかし」になるように微力ながら全力で取り組んでいく。アスリートの超人的活躍を身近に感じられるオリンピックイヤーの今年、殊に肝に銘じていきたいと思えます。（陸）

令和になった最初の年も終わり、2020年を迎えました。一つの時代の節目とともに、これからの未来に向けて、新たに気持ちを引き締めて考え、行動する年になったともいえます。過去を振り返り、今と向き合い、未来を思う。気持ちを新たに、新年を迎えながら2020年も全力で駆け抜けていきます。（江）

遅ればせながら、皆様明けましておめでとうございます。今年には日本の文化に世界中からの注目がますます集まりそうです。2020年としてそれ以降と続くプロジェクトが実ってきています。一過性のブームで終わらせることなく、この深いある東京文化資源が世界に広く愛されるよう、私たちが頑張ってお伝えしていこうと思えます。（雅）



[ティーチャ]東京文化資源会議ニュースレター No.10

読み、旨み、味わいのある東京の文化資源的エキスを3ヶ月に一度、お届けします。

編集：東京文化資源会議広報委員会 デザイン：波井史生(PANKEY inc.) 執筆：江口晋太郎(TOKYObeta Ltd.)

写真：鈴木渉 印刷・製本：スターツ出版株式会社 発行人：東京文化資源会議 発行日：2019年12月31日

〒110-0005 東京都台東区上野2-11-1藤井ビル3階 TEL：03-5244-5450 MAIL：info@tcha.jp URL：http://tcha.jp/

